

# 子どもたちにより良い教育環境を

## 1 2018年4月現在の現状と2020年4月の推計

※2020年4月の各学校の児童数については、学校選択制により変動することがあります。

	2018年4月(始業式時)		2020年4月(推計)		統合した場合 (2020年4月推計)
	佃南小学校	佃西小学校	佃南小学校	佃西小学校	
人数	93人	472人	80人程度	500人程度	580人程度
クラス数	6クラス	16クラス	6クラス	16クラス	20クラス

## 2 なぜ適正配置(統合)が必要？

子どもたちにとって、より良い教育環境を確保し、教育活動の充実を図るためです。

### 3 より良い教育環境とは？

#### 【適正規模（12～24学級＝学年複数学級）の小学校のメリット】

- ① クラス替えができることで人間関係が固定化されにくく、多様な考えに触れ人間関係づくりのスキルが高まります。
- ② 大きな集団の中でクラス対抗リレーや球技大会、体育の集団競技ができるなど、また、音楽の合唱や合奏の際に、教育活動の幅が広がります。
- ③ 中学校へ進学した際に生徒数、友人関係などでギャップを感じる事が少なくなります。
- ④ 学校に配置される教員が増えるため、教員の校務の負担が分散化され、授業準備や指導研究、児童と触れ合うために割く時間ができ、児童に向き合う時間が多くなります。
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で、学力や学習意欲が向上します。
- ⑥ 児童の少人数授業を行う際に、2学級3分割や3学級4分割など、児童の理解度・習熟度に応じた集団に細分化することで、よりきめ細かな学習指導を行うことができます。

## 4 一方で、小規模校については・・・

### 【小規模の小学校のメリット(特に1学年1学級の場合)】

- ① 児童への指示が通りやすく、全ての児童が顔見知りであることなどから、学校としてまとまりやすい。
- ② 学校として、児童1人1人の生活実態が把握しやすいことから、家庭との連携がとりやすい。
- ③ 1クラスの児童数によるが、一人一人にきめ細かい指導を行ないやすい。

### 【小規模の小学校のデメリット(特に1学年1学級の場合)】

- ① 6年間クラス替えができないことから、争いを避けてディスカッションができないなど、人間関係が固定化する傾向にあります。  
また、様々なタイプの子も同士で切磋琢磨する機会が少なくなります。
- ② リレー、球技大会などでクラス対抗ができない、集団競技、音楽の合唱や合奏が困難な場合があり、教育活動の幅が狭くなります。
- ③ 学校に配置される教員数が少ないため教員1人あたりの校務の負担が重くなることから、授業準備や指導研究のほか、児童と触れあうために十分な時間を確保することが難しくなり、児童に向き合う時間が少なくなります。
- ④ 学年単学級の場合には同じ学年に複数の教員がいないため、互いにカバーできないほか、多様な指導方法を取る事が困難となります。  
例えば、教員数の関係上、1学級を2分割することしかできず、多様な理解度・習熟度に応じたグループ分けがしにくくなります。

メリットがある反面、デメリットについては学校や保護者・地域の努力だけでは克服することが困難な、学校規模に起因するものになっています。

## 5 統合に関する不安や心配なこと

過少規模校と比べ、「人数が多いためまとまりにくい」、「児童1人1人の生活実態の把握がしにくいのでは？」と聞かれることがあります。

例えば適正規模校で1学年50人の児童が在籍している場合、1学級25人の2学級となります。学級あたりの人数は変わりませんので、児童数が多いことが生活実態の把握がしにくく家庭と連携がとりにくいといった、デメリットに直結するわけではありません。

統合前は子どもも保護者も「学校が遠くなること」や「新しい友達ができるのか」という不安があります。けれども、過去に統合した小学校のアンケートからは、次のような声があがっています。

### 統合に関するアンケートより

(平成22年10月中津小と中津南小の統合に関するアンケート)および平成26年10月「塩草小と立葉小の統合に関するアンケート」の過半数を超えたもの)

こども	保護者
<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい友達ができ、学校がにぎやかになった。</li><li>・遊び仲間が増えた。</li><li>・遠足や運動会など、人数が増えて楽しかった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい友達関係が心配だったが、子どもは1か月で統合後の学校生活に慣れた。</li><li>・運動会などの学校行事は人数が増えて活発になった。</li><li>・子どもの様子を見て、学校を統合してよかった。</li></ul>

## 6 これから

- 1 佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を立ち上げます。

佃西小学校の施設整備を行い、佃南小学校と佃西小学校の子どもたちの交流事業をおこなうなど、市教育委員会と学校、区が一体となって統合を支援してまいります。

- 2 2020年4月、佃南小学校(平成2年開校)が、佃西小学校(昭和54年開校、平成2年に佃南小学校を分離)に戻る、という形での統合に向けた協議を進めていきます。

11学級以下の小学校については、適正配置の対象校となります。統合の相手校については同一中学校内にあり、校区が隣接している小学校が相手校となります。適正配置対象校と適正規模校の統合は、適正規模校を存続校とします。よって、佃南小学校の相手校は佃西小学校となります。  
(大阪市立小学校学校配置の適正化の推進のための指針より)

- 3 統合に向けて、学校と子どもたちの準備を整えていきます。

学校、PTA、地域活動協議会、学校協議会、西淀川区役所、大阪市教育委員会など、関係者が集まって統合後の学校の姿について話し合いを重ねていきます。

- 4 児童いきいき放課後交流事業など、学校と子どもたちをとりまくさまざまな事業について、スムーズな統合になるよう調整してまいります。